

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 8 月 2 日 (2007.8.2)

【公表番号】特表 2006-527291 (P2006-527291A)

【公表日】平成 18 年 11 月 30 日 (2006.11.30)

【年通号数】公開・登録公報 2006-047

【出願番号】特願 2006-515851 (P2006-515851)

【国際特許分類】

C 1 1 D 3/39 (2006.01)

C 1 1 D 3/395 (2006.01)

D 0 6 L 3/02 (2006.01)

【F I】

C 1 1 D 3/39

C 1 1 D 3/395

D 0 6 L 3/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 6 日 (2007.6.6)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 1】

界面活性剤は、硫酸塩、特に好ましくは硫酸ナトリウムを添加することによって不活性化され得る。これは特に、界面活性剤の塩析を生じ（即ち、相分離が誘発され、界面活性剤欠乏連続相及び好ましくは薄層状の通常高粘度の結晶性又は液晶性界面活性剤リッチ相が形成される）、界面活性剤は、特にミセル活性体から好ましくは薄層状の結晶体又は液晶体（結晶形成物又は液晶形成物）に転化され、ほぼ界面活性剤フリーの連続相中に分散される。例えば遠心分離によって分離され得る分散界面活性剤液晶自体は、可能な限り高粘度であるべきである。連続相における本発明の洗剤配合物及び洗浄剤配合物中のフリー界面活性剤含有量が、分散体又は分散体連続相に基づいて、特に好ましくは 1 % を超えない場合、過カルボン酸の特に優れた安定化を達成することができる。